
特別企画

わが教育委員会のこれまでの取り組みと新教育委員会制度の困難と可能性

【司会】安宅仁人(酪農学園大学)

柳林信彦(高知大学)

【報告者】

1. 小木曾伸一(長野県駒ヶ根市教育委員会教育長)
「教育委員会事務局『子ども課』設置10年の取り組み
—夢と希望にあふれ、誇りを抱くことのできる子どもたちの育成を目指して—」
2. 土居 英一(高知県高知市教育委員会教育次長)
「『土佐の教育改革』から教育振興基本計画へ
—教職員に信頼を置いた学力向上支援政策の展開—」

【趣旨】

本企画は、教育行政の研究(理論)と実践の融合を図るため、本学会と教育行政現場との交流や対話を積極的に推進することを目的としており、毎年、創意工夫をこらした教育行政活動を精力的に展開しておられる自治体の教育長等に登壇していただいております。これまでの取り組みの成果と、当面する教育行政課題について情報発信していただき、それを学会会員間で共有し、今後の教育行政研究の発展の一助となることを期待しております。

平成27年度(2015年)4月からの新しい教育委員会制度への転換を半年後に控えたこの時期、幼児教育から高等教育まで様々な教育改革が目白押しで、どこの教育委員会も大変難しいかじ取りを迫られています。ただ、総合教育会議を組織して首長と教育委員会との連携を緊密にしていくことについても、教育政策の大綱をつくっていく取り組みについても、それぞれの自治体は、すでにこれまでも鋭意努力されてきたところでもあります。したがって、新しい教育委員会の運営は、これまでの自治体独自の取り組みを土台にして、首長との新しい質の関係構築により、多様に展開されていくものと思われれます。

そこで、これまで精力的に教育行政改革を展開されている長野県駒ヶ根市と高知県高知市の教育長さん等をお招きして、これまでの取り組みの到達点と課題を明らかにしていただきます。そして、新しい教育委員会制度に向け、どのような困難と可能性があるのか、また子育て・教育といった「ひとつづくり」と、まちづくりの計画との間にどのような展望が生まれてきているのか、教育行政の最前線から具体的な事例をあげて報告いただきます。さらには、教育行政学会の研究活動への忌憚のないご意見やご注文もお願いしております。

学会会員のみならず、市民の皆様、自治体教育行政関係者の皆様の積極的な参加をお願いします。

「子ども課」設置 10 年 — 教育と福祉の連携

— 「夢と希望にあふれ、誇りを抱くことのできる子どもたちの育成」を目指して—

小木曾伸一（長野県駒ヶ根市教育委員会教育長）

1 教育委員会「子ども課」の設置

(1) 「子ども課」・・・子ども行政の一元化と幼保小中の連携を目指して

(2) 「駒ヶ根市子ども行政の一元化特区」認定（平成16年3月4日）

○「委任」、「補助執行」、「併任」

(3) 「子ども課」の組織

①母子保健係 ②子育て家庭教育係 ③幼児教育係 ④学校教育係

(4) 「こまがね 子育て10か条」の制定（平成19年8月）

○学校と地域、教育と福祉の連携による子育て理念

- 1 アルプスに 響くあいさつ 心が通う
- 2 早寝 早起き 家族で愛の朝ごはん
- 3 「ありがとう」「ごめんなさい」 言葉で伝える 素直な気持ち
- 4 ほめてしかって抱きしめて 目を見てうなずき 最後まで
- 5 家事・育児 家族みんなで協力を できることからお手伝い
- 6 メディア漬けに御用心 テレビやゲームは時間を決めて
- 7 外遊び 群れ遊び 自然に身につく がまんやルール
- 8 顔出せば 広がる人の輪 ご近所づきあい
- 9 生まれでた 一つの命 大切に
- 10 わが家の一条を家族で決めましょう

2 発達特性を持った子どもの支援

(1) 「五歳児すこやか健診」・・・発達特性の早期発見、発達障がいの早期療育

(2) 児童発達支援施設「つくし園」の設置

(3) 「発育発達支援個人票（「子どもカルテ」）」の作成と送付

(4) 発達障がい支援ネットワーク・・・縦（成育段階）と横（地域）の連携の広がり

(5) 読み書き支援とビジョントレーニング

（「発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」）

(6) 就園・就学支援委員会・・・子ども課各係の連携

(7) これからの支援の方向・・・社会での受容と共生へ

3 乳幼児期の子育ち支援

(1) 子育て母子支援 ・ ・ 孤立と体験不足傾向の親子

- ①産前・産後サポート事業（「妊娠・出産包括支援モデル事業」） ・産後ケア事業
- ②子育て支援事業 ・子育て支援センター事業 「キッズランド」、ファミリーサポート事業
- ③地域親子事業 ・公民館、分館行事 母親学級、親子文庫 ・ジュニアフレンドパーク事業

(2) 特色ある保育園・幼稚園づくり ・ ・ 学びの基礎力の育成

- ① 絵画（造形）指導
- ② 親子体験的行事 ・「キッズわくわくデイ」
- ③ お散歩マップ
- ④ インクルーシブな保育 加配保育士の配置

4 食育の推進

(1) 保育園・幼稚園の畑作りと調理体験（「キッズクッキング」）

(2) 小・中学校の「お弁当の日」

(3) 「家族共食の日」 ・ ・ 「駒ヶ根市第二次食育推進計画」

5 読書活動の推進（「読育」）

(1) ブックスタート事業

- ①ブックスタート（0、5年 育児相談） ②セカンドブック（2、5年 育児相談）
- ③巡回図書（保育園・幼稚園） ④サードブック（小学校入学時）

(2) 小・中学校の「全校読書」

(3) 「家族読書の日」 ・ ・ 「駒ヶ根市第二次子ども読書活動推進計画」

6 スポーツ推進

(1) 保育園・幼稚園の運動能力測定と「運動遊びプログラム」

(2) 小学校の「かけっこ教室」とスポーツ少年団活動、中学校部活動

(3) 「スポーツ ノー残業デイ」 ・ ・ 「駒ヶ根市スポーツ推進計画」

7 学力向上プログラム

(1) 保育園・幼稚園の「学びの基礎力」づくり

- ① 豊かな自然体験と充実した集団生活
- ② 「幼児幼年教育研究会」 ・幼保小中の人的交流と接続カリキュラムの検討

(2) 標準学力検査の実施と授業改善

(3) 「Q-U」の実施と学級づくり

(4) 学校支援ボランティア ・ ・ 放課後学習支援による個別指導の充実

(5) 「駒ヶ根市版 家庭学習の手引き」

(6) キャリア教育の充実 ・ ・ 学習の意欲化

「土佐の教育改革」から教育振興基本計画へ —教職員に信頼を置いた学力向上支援政策の展開—

土居英一（高知県高知市教育委員会教育次長）

1. なぜ「土佐の教育改革」だったのか

(1) 教育を取り巻く当時の状況

「もう一度、教育の原点は『子どもたちの教育にある』ということを是非お互いに考えていただき、従来からの対立を乗り越えた議論ができないかと考えております。」（第1回「土佐の教育改革を考える会」での橋本大二郎知事の挨拶から）

(2) 「土佐の教育改革」の概要

○ 「土佐の教育改革を考える会（平成8年6月から12月）」

公開の場で県民的な議論を深め、教育改革のための具体的な方

策を導くために、保護者、学校関係者、県議会各会派代表、企業経営者、マスコミ関係者など幅広い分野の代表者を委員として、半年間に10回の会合が開催された。その詳細が毎回、新聞等のマスコミによって報道された。

高知市教育改革推進会議（平成8年度）
「今、なぜ、教育改革なのか」

○ 第一期土佐の教育改革（平成9年度～13年度）

「土佐の教育改革を考える会」が示した3つの柱に基づいた具体的な取り組み

① 教職員の資質・指導力の向上

- ・教員の研修内容や研修時期の見直し
- ・広域人事交流の実施 ・採用審査の見直し

高知市の教育改革を進める会(平成9年度)
「教育改革のうねりを学校から」

② 子どもの基礎学力の定着と学力の向上

- ・授業評価システムの導入 ・到達度把握調査の実施

③ 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

- ・「開かれた学校づくり推進委員会」の設置 ・「地域教育指導主事」の派遣

地方分権の流れもあり、国の補助金に頼らない土佐らしいスケールの施策が打ち出された。

○ 第二期土佐の教育改革（平成14年度～）

「改革のうねりは学校から」を合言葉にした教育の質的向上

① 質と量の両面からの徹底した学力向上対策

- ・指導方法、指導形態の工夫
- ・学校のビジョンや要望に応じた教員配置

いきいき土佐っ子 高知市の教育改革を進める会
「提言書」（平成15年度）

② ボトムアップの改革ができる環境づくり

- ・市町村教育改革総合支援事業 ・ハイスクールプラン（校長裁量予算）

③ 人事管理の工夫改善

- ・教員人事での様々な工夫 ・指導を要する教職員対応

(3) 「土佐の教育改革」がのこしたもの

学校・家庭・地域、そして行政のそれぞれの壁を乗り越え、「子どもたちのために、一緒になってやろう」という教育的な風土の枠組が構築され、そのための具体的な施策も講じられた。しかし、それがすぐには現場の教職員や保護者を巻き込んだ大きなうねりにはなり得なかった。

その要因はどこにあったのか？

2. 全国学力・学習状況調査

(1) 平成19年度調査の結果と反響

- 到達度把握調査から想定された結果と全国学力・学習状況調査だからこそ明らかになったこと
 - ・中学生全国ワースト2位（高知県） ・「授業以外で全く学習をしない」生徒の割合 17.8%
(高知市)



抜本的な学力向上対策の必要性

(2) 学力向上対策（平成19年度～23年度：学習の量に焦点をあてた対策）

- 学習習慣確立プログラム（平成21年度～）
 - ・パワーアップシートの配付と中学校学力向上補助員の配置
 - ・学力向上スーパーバイザーの派遣 ・家庭学習アンケート調査の実施
- 算数・数学単元テストの実施と国語、算数・数学学習シートの配付

高知市立小中特別支援学校長会宣言

（平成20年度）

「高知市立小中学校における
学力・体力の向上に向けて」

3. 高知市教育振興基本計画（平成25年度）

(1) 学校教育指標《前文》

「土佐の先人の進取・自立の気風に学びながら 個人の尊厳を重んじ 心理と正義を希求し
公共の精神を尊び 豊かな人間性と創造性を備えた 人間の育成をめざす」

(2) 4つの基本目標と12の基本方針

4. 学力対策第二ステージ（平成24年度～29年度：持続可能な学力対策）

～ 子どもに 夢と希望 自信・勇気を ～

(1) 学力向上と生徒指導を両輪として

- 小学校を全国トップレベル 中学校を全国平均レベルに
- 万引き・窃盗・暴力事案への対応 ～ワーストからの脱却～

具体的な達成目標と

達成年度の明確化

(2) 各学校の創意工夫と教育委員会による学校支援

- 9名のスーパーバイザー（学力向上・生徒指導）
- 指導主事による年間400回の学校訪問
- 様々な人的支援の充実（教員補助員・児童生徒支援員・学校図書館支援員等）

学校経営計画と

授業改善プランを活用して

(3) 全国学力・学習状況調査結果の公表（情報のオープン化）・・・保護者や地域も巻き込む

5. やれることは何でもやる（キーワードは「つなぐ」）

(1) 高知チャレンジ塾の立ち上げ

- 確かな学力をつけることで、貧困の連鎖を断ち切る
 - ・健康福祉部との連携と高知シニアネットワークへの委託

人をつなぐ

(2) 学力向上の一貫としての保・幼・小・中連携

組織をつなぐ

- 小1ギャップ・中1プロブレムへの対応
 - 「保・幼・小連携プログラム」 「小中連携の日」 「小1サポーター」

教育をつなぐ

(3) 小中一貫校とコミュニティースクール

6. 今、考えること・・・向かい風を追い風に

(1) やればできるという手応えと、更なる充実に向けた取り組みの見直し

(2) 教育委員会の果たすべき役割とあり方について

不 易 と 流 行 学校教育指標《前文》の精神に立ち返って